

第2回 高山市平和都市宣言検討会議 会議結果

日 時	平成27年10月16日（金）16:00～17:40
場 所	高山市役所 地下1階 大会議室
出席委員 18名 (敬称略)	黒木正之（会長）、元仲しのぶ（副会長）、小林伸子、高桑眞佐子、岡田悦子 滝村一彦、谷口律生、谷口津弥子、銅島大衍、住奥久隆、伊藤文子 平塚光明、糠塚良一、坂本智樹、生田チサト、松原 滋、西田純一、丸山永二
内 容	<p>○中学生、戦争体験者からの話 (日枝中学校3年生2名)</p> <p>2年生の終わりから約4か月間、「自ら平和をつくる、本当の平和とは、自分達でできることとは」というテーマで、平和学習を行って広島へ修学旅行に行きました。平和学習をする前は、日本で戦争がおきた、原子爆弾が投下されたということぐらいしか知らず、いつ、どこで、なぜ起きたのか知らなかったのですが、平和学習を通して、戦争や原爆の中身が見えてきました。それは、想像を絶するもので、怖い、悲しいという言葉では片づけられない過去でした。この悲劇を忘れてはいけない、二度と繰り返してはいけない、本当の平和をつくらなければいけないと思います。</p> <p>今の私たちには、国家を動かすことほどの大きな力も知恵もありませんが、私たちは個人レベルでできることをしなければならぬと思います。いじめやけんかを限りなくゼロに近づける、仲間を大切にするなど、自分なりにできることを努力していきたいです。考えてください、何か一つ自分が平和のために努力できることを、私はそれを考え実行し、努力していきます。</p> <p>・委 員：崩れぬ平和とは何だと思えますか？ ・学 生：原子爆弾が二度と落とされることが崩れぬ平和だと思います。</p> <p>・委 員：勉強して修学旅行に行き、帰ってきて、考えが変わったことは？ ・学 生：修学旅行で実際のもを見たら、全然、感じるものが違いました。あまりにも生々しかったし、驚きました。私は、自分だけの意識が強かったのですが、身近な平和を作らなければならぬという意識をもって、周りに協力するようになりました。</p> <p>・委 員：ネット環境の問題も、平和学習と関連がありますか？ ・学 生：ネットで人を傷つける問題は、12月の人権集会で、いじめ、喧嘩をゼロにするということで考えていきたいです。</p> <p>(東山中学校3年生4名)</p> <p>2年生からの平和学習を通して、平和に関心を持つようになりました。広島への修学旅行で様々なことを学びました。原爆の子の像の前で、平和セレ</p>

モニターを行い、東山中学校平和宣言をしました。原爆の被害にあわれた方は、生きたくても生きられませんでしたが、だから、私たちは、生きていることに感謝して、今を精一杯生きる必要があると思います。修学旅行から帰ってきて、一年生、二年生に学んだことを伝えましたが、これで終わってはいけなし、これからも、未来に伝えていきたいです。

戦争はなぜ起こるのか、戦争は身近にあるのではないかと思います。いじめが起こるのは、個々の能力の違いをお互いに認めあわないからだだと思います。個々の能力の違いをお互いに尊重して生きていく社会をつかっていきたいです。

美味しいご飯が食べられ、お風呂に入れ、家族や友達がそばにいて、当たり前前の方がほんとうはすごく幸せということに気付きました。戦争の悲惨さを感じたからこそ、自分達一人一人ができることを考えなければならないと思います。未来に確実に伝えていきたいです。中学生にはできることが限られていますが、感謝の気持ち、仲間、家族を大切にすることを、当たり前前が本当は幸せなことだと気付いたからこそ、当たり前前の生活に感謝の気持ちを忘れることなく、伝えることから始めていきたいです。

高山は、海外から多くの方が訪れる観光都市です。高山市で生まれ、育ち、生活する高山市民であることを自覚して、高山市から世界平和の願いを発信し続けていきたいです。東山中では12月12日に「郷土の未来を語る会」で、「高山市民として、高山市に住む自分達は、平和な世の中を築いていくために何が必要か」をテーマにディスカッション、提言を行うことにしています。世界が平和であってほしいので、未来へ戦争や平和について伝えていきたいです。

- ・委員：「郷土の未来を語る会」は誰でも行って良いのですか？
- ・学生：どなたでもお越しいただけます。

- ・委員：広島への修学旅行で、後輩に広島へ行ってほしいですか？
- ・学生：映像だけでは、分かりません。広島に行って実際のものを見てきてほしいです。

- ・委員：広島へ行って、人を思いやる心とか、自分達の変化を感じますか？
- ・学生：広島に行ったら、戦争は些細なことから起きていると思いますので、互いの違いを認め合うことの大切さに気付きました。

- ・委員：広島に行って、長崎のことをどう思いましたか？
- ・学生：長崎については、これから調べていきたいです。

（「高山戦争を語りつぐ有志の会」谷口岩雄代表）

14歳で兵隊に行きました。男は兵隊に行って死ぬんだぞと教えられました。戦争は、人を洗脳し、命を無残にも奪います。非常に恐ろしいことです。平和への声を大きくしてほしいです。女性は、腹帯に千人針を縫いこむことで、無事の帰還を願いました。高山にも空襲予告ビラがまかれました。高山でも戦闘機用の備品が製造されました。戦争を語り継ぐ語り部が減っています。会への参加の声掛けをお願いしたいです。高山市にも戦争資料館が必要ではないでしょうか。

- ・委員：父たちが戦争に行きましたが、父たちは戦争について話しませんでした。きっとふれたくなかったからだと思います。いつまでもお元気で、語り継いでいただきたいです。
- ・谷口氏：戦友は、肉親よりも強い絆があります。きびしい戦いをした方は、戦争中のむごい話はできません。
- ・委員：何故、戦争体験を語り継ぎたいと思われているのですか？
- ・谷口氏：命を大切にしたいからです。

○市民意見の報告

小学校、中学校、高校、各種団体からの意見結果を報告。10月まで募集している市民意見は、次回の会議で報告。

- ・事務局：「質問1. どんな時に平和を感じますか？」については、「普段の日常に平和を感じている」が全体の5割。次が、「人とのつながり・相互理解があるとき」、「戦争・争いがないうち」であった。

「質問2. 世界の平和を実現するために、何をしたら良いと思いますか？」については、「交流・相互理解・尊重」が一番多かった。次いで、「戦争（争い）をなくす」、「ボランティア・寄付・助け合い」であった。

- ・委員：市民総意の平和宣言であるなら、市民意見は、意見数が欲しいと思われる。少なかったら検討の余地があるのではないか。
- ・事務局：市民の総意といえる数ということで、少なければ、募集期間延長も視野に検討していきたい。

資料1 「高山市平和都市宣言に向けた意見募集について（中間報告）」

○「高山市平和サミット（10月30日開催）」における広島市長、長崎市長、高山市長への質問

・広島でも、若い世代への語り継ぎが減っており、平和への意識が薄れているというデータを受け、広島市は独自の平和教材を作成していることを新聞記事で知った。次世代に伝えることを、平和都市として、行政としてどのように考え、取り組まれているのか？次世代へ語り継ぐという観点で、長崎にも伺いたい。

・高山市の全体的な平和への取り組みの中で、平和宣言の高山市の位置づけを教えてほしい。また、広島市、長崎市は、どのようなことを軸に、平和への取り組みをされているのか？

・核兵器廃絶以外の平和への取り組みは、どのようなことが考えられるか。

・広島市長さん、長崎市長さんに、平和について、どのような思いで市政を担われ、どのような取り組みをされているのか伺いたい。

・高山市長に、観光都市として、平和への取り組みをどう進めていくのか、伺いたい。

・広島市、長崎市長さんに、平和を築くために市民一人一人がどう生きていくことが大切だと思われているのか伺いたい。